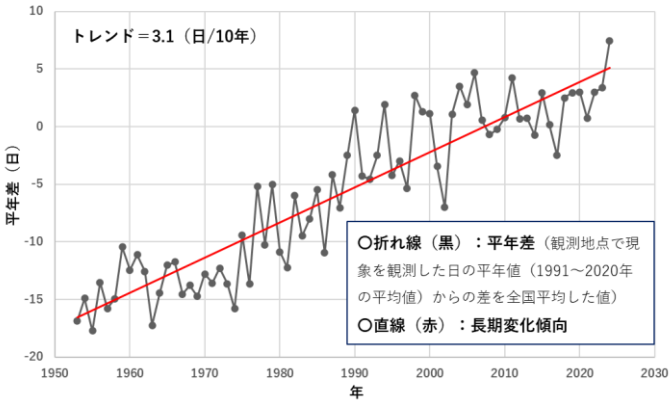
愛知県気候変動適応センターだより(2026年11月)

○ 気候変動により紅葉時期が遅くなる傾向

日本の年平均気温は 1898～2025 年の間に 100 年当たり 1.44℃の割合で上昇しており、特に 1990 年代以降は、記録的な高温となる年がよくみられます。愛知県（名古屋）においても、年平均気温が 100 年当たり 2.3℃上昇しています。

気温上昇の影響を受けているとされるのが、かえでの紅葉です。気象庁が行っている全国 51 地点の観測によると、1953 年以降の紅葉・黄葉日は年ごとに変化があるものの、10 年当たり 3.1 日程度遅くなっています。また、紅葉が重要な観光資源にもなっている日本の高山帯では、紅葉がみられない年も出現するなど、深刻な影響を受けています。

［全国平均］かえでの紅（黄）葉日の平年差



文部科学省及び気象庁「日本の気候変動 2025」を基に愛知県が作成

○ 紅葉時期だけでなく色づきにも影響

春先に葉が広がり始める日である『展葉日(てんようび)』が紅葉の色づきの強さに大きく影響することが国立環境研究所、森林総合研究所、信州大学の研究で示唆されました。

紅葉は春に緑色・黄色の色素が合成されたのち、秋に緑色の色素の分解と赤色の色素の合成によって葉の色が現れます。しかし、冬が暖かくて、展葉日が早い年では、展葉日が遅い年よりも古くなった葉で紅葉する時期を迎えることから、色素の合成や分解がスムーズに進まずに色づきが悪くなる可能性が考えられるとのことです。



家族で紅葉狩りをしている様子

紅葉狩りは、私たちに季節の移ろいを感じさせる大切な秋の風物詩です。しかし、気候変動が進むと、見頃を迎える時期が変化し、色づきも以前のような鮮やかさが失われるかもしれません。

これからも見事な紅葉を楽しむためには、私たち一人ひとりが常日頃から地球温暖化対策に取り組み、気候変動への影響を減らすことが求められます。

愛知県気候変動適応センター
環境調査センター　企画情報部
電話 052-910-5489（ダイヤルイン）

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら
https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html

AiLCCAC 愛知県気候変動適応センター
Aichi Local Climate Change Adaptation Center

